

北見市立美山小学校

指定年度：H29～
児童数：445名

1 包括的な学校改善に向けた取組の概要

①教育理念や経営方針の浸透

教職員並びに地域、保護者に対し、学校経営方針を浸透させ、教育活動に対し協力を求めていくことに課題が見られていることから、本項目に取り組んだ。
【具体的取組】

- ・グランドデザインの作成と活用～教職員への提示、保護者・地域へ周知した。
- ・「美山小学校 基本ガイド」の作成～学習規律、家庭学習など、保護者への協力を求めるとともに、教職員にも指導を共通、一貫、徹底、継続させた。
- ・学校ホームページ（ブログ）の活用～学校の教育活動を積極的に発信した。

②協働意識の高揚

校務分掌間の連携、教職員の学校経営参画意識の高揚、働き方改革などへ意識を高めていく必要があることから、本項目に取り組んだ。

【具体的取組】

- ・コーディネーター会議の開催～校務分掌間で連携し、職員会議の効率化を図るために設置した。
- ・感染症対策委員会の設置～新型コロナウイルスに関わる対応について、校務分掌、学年間での連携や対応の徹底を図ることを目的に設置した。

③コミュニケーション

教職員間ではもとより、管理職と教職員のコミュニケーションを大切にし、メンタルヘルスケア対策、緊急を要する課題への迅速な対応という視点から本項目に取り組んだ。

【具体的取組】

- ・開かれた校長室の実現～応接セットを会議用テーブルにし、行事黒板をホワイトボードに変更した。
- ・日常的な管理職による授業参観～児童に関わる情報を共有することで教職員とのコミュニケーションを図った。

④人材育成

ミドル層の教職員に対して、学校経営参画意識をもたせることで、将来の管理職候補の育成をねらいとし、本項目に取り組んだ。

【具体的取組】

- ・コーディネーター会議の開催～ミドル層の学校経営参画意識を高めた。
- ・課題や解決策を校務分掌で検討～学校評価結果を各校務分掌で検討させることにより、教職員自身が結果を自分事として捉えること、また、明確になった課題に対し、自らが解決策を考えることで意識化を図った。
- ・初任段階教員による自主的研修組織「あすなる会」の開催～初任段階教員自らが課題としている内容を設定し、自主的に研修を行う。初任段階教員同士の横のつながりの構築にも寄与した。
- ・メンター（OJT）を意識した組織体制の構築～校務分掌、学年を初任段階教員とベテラン教員という組合せで配置し、日常的な指導体制を確立する。また、運動会や学芸会など大きな行事を、初任段階教員に担当させる。担当するに当たって、前年度担当した初任段階教員がサポートに入った。



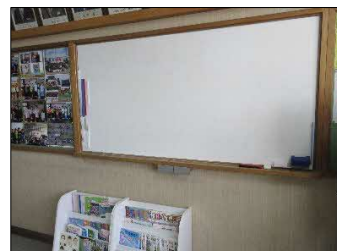
【グランドデザイン】



【美山小学校 基本ガイド】



【校長室の様子】



【ホワイトボードの設置】

2 取組の成果と課題（□：成果 ■：課題）

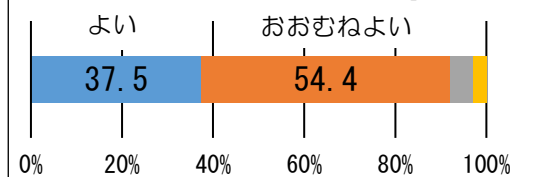
□ コーディネーター会議、感染症対策委員会を設置し、運用したことで、ミドル層が学校課題を自分事と捉えるようになり、学校経営参画意識の高まりが見られている。また、特別支援コーディネーターを3人配置し、ケース会議を頻繁に実施することで、児童の課題について学級担任1人が抱えることなく、学校が組織として対応するという意識も高まっている。

学校評価においても、「各業務について、各分掌での協議検討が確実に行われ、分掌間の連携が図られていたと思いますか。」の項目に対して、「よい」と回答した教職員が65.5%となり、昨年度よりも増加した。（令和元年度26.9%）

□ 学校ホームページ（ブログ）による発信は、保護者に好評であり、閲覧数は、1日平均250件を越える。（家庭数341戸）なお、新型コロナウイルス感染症に関わる対応については、多くの保護者が閲覧していた。学校評価においても91%の保護者が、「よい」「おおむねよい」と評価している。

■ 本校では、生徒指導上の課題が散見され、児童の生活面に対する指導について、教職員個々の取組という意識が強いことから、生徒指導部を中心とした組織的な生徒指導体制を確立する必要がある。

「学校の様子について、学校HPや各種便り、PTA総会や懇談会等で皆さんに説明するように努めていますが、十分に行われていると思いますか」



【学校評価（一部抜粋）】